

学校法人 高田学苑  
高田短期大学育児文化研究センターだより

# IKUBUN NEWS

第7号 2008.2.15

発行 高田短期大学育児文化研究センター  
〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195  
TEL 059(232)2310(代表) FAX 059(232)6317

## 地域への子育て支援事業の広がり「子育て応援隊」の躍進

平成 19 年度は、「子どもの夢を育む地域支援プロジェクト事業」として過去最高の 11 分野 22 の子育て支援事業を実施しています。今年は、定例の子育て支援事業に加えて、子どもの読書活動に対する支援としての「絵本の読み聞かせ」、妊娠期からの親と子どもの絆づくりをめざした「マタニティコンサート」など新たな分野の事業にも取り組みました。また、平成 18 年度より育児文化研究センターにおける子育て支援学生ボランティアが、「子育て応援隊」として活動するようになりましたが、平成 19 年度は子ども学科のボランティア活動とともに、この「子育て応援隊」の活動が平成 19 年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP) に採択されました。そのことによって当初の計画よりも 4 事業を追加し、育児文化研究センター事業が一層充実したものとなりました。



自治体や地域の団体の要請を受け教員と学生が協働参画して地域の子育て支援に出る「子育て応援隊」は、親子を対象にした手遊びやエプロンシアター・製作、アートバルーンなど活動の支援だけではなく、時には主体となって様々な活動に企画・参加しています。朝から雪景色となった 2 月初旬に、「子育て応援隊」の学生とともに地域の読書フェスティバルに参加しました。バルーンによる会場装飾、読み聞かせ、講演中の託児を受け持ちました。絵本コーナーで子どもや親子に触れ合い、読み聞かせを行いました(写真)。バルーンによる環境構成は雰囲気明るいととても喜ばれ、子どもに接する保育学生の活動が評価されました。このように「子育て応援隊」は、地域の資源としてとても有意義であり、学生自身も実際の地域の親子に触れ、地域の人と協同して事業を遂行していく中で多くのことを学び、確実に子育て支援力を形成しています。育児文化研究センターは、この「子育て応援隊」の活動を発展させていきたいと思っています。引き続き「子どもの夢を育み健やかに育つ」支援を地域の皆様と連携し努力していく所存ですので、どうかよろしくお力添えをお願い申し上げます。

育児文化研究センター長 梶 美保



研究会の活動紹介	…	5 頁
新入会研究員・客員研究員の紹介	…	6 頁
問い合わせ・アクセス	…	6 頁
定例研究会報告	…	5 頁
・ 企画事業	…	4 頁
・ 社会的活動への参加	…	4 頁
平成十九年度事業報告	…	2 頁
センター長挨拶	…	1 頁
・ 平成十九年度重点事業	…	1 頁
子どもの夢を育む地域支援プロジェクト	…	1 頁

## CONTENTS



## 平成 19 年度事業報告

今年度はセンター主催事業のほか後援事業、その他社会的活動に研究員や客員研究員、子育て応援隊が精力的に取り組みました。

< 詳細はホームページ 高田短期大学 > 育児文化研究センター > 活動内容

<http://www.takada.jc.ac.jp/cgi-bin/ikuji/list.cgi> をご覧ください。 >

子どもの夢を育む地域支援プロジェクト事業(独立行政法人医療福祉機構助成事業)

平成 19 年度の重点取り組みとして「子どもの夢を育む地域支援プロジェクト事業」を企画しました。これは、最近の子どもをめぐる環境は、児童虐待の増加や学校でのいじめ問題の深刻化など、子どもたちが安心して成長できる状況ではなくなってきています。その中で「明日に向かってたくましく生きていく」子どもたちの発達支援を行なうこと、そして、子どもたちを産み育てている親や関係者たちの支援・育児啓蒙を行なうことは緊急の課題です。そこで、マタニティ女性、乳児、幼児、学童及びそれらの育児・教育に携わる人々を対象とした各種イベントを実施することにより、子どもの「夢」を育み、子育てをする人たちに愛と勇気とともに育ち合える機会を提供し、子育てに前向きな地域社会づくりに貢献しようとしたものです。

### 企画事業

#### (1) 0・1・2歳児のための子どもひろば

(0 歳児 : H19, 6/23・9/29・11/10 1・2 歳児 : H19, 7/28・10/13・12/15 於: 本学育児文化室)



センター事業の中でも人気の講座で本年度も多くの親子の方に参加していただきました。0 歳児対象の講座ではベビーマッサージや乳児の食育やことば育てなどのミニ講座、学生によるふれあいあそび、そして個別の育児相談を行いました。講師は、梶美保研究員、開業助産師、今吉久美客員研究員でした。



1・2 歳児対象講座では、幼児体育、幼児音楽が専門の講師によるリズムダンスや親子で楽しむふれあいあそび、子育て応援隊学生による人形劇やパネルシアターを行いました。また親子で手作りおもちゃも製作しました。講師は、榊原尉津子研究員と山本敦子研究員でした。学生ボランティアは延べ 31 名でした。参加者は 6 回の講座で計 201 名となりました。

#### (2) 子どもの夢を育む絵本の読み聞かせ (H19, 6/30・9/8 H20, 1/19 於: 本学育児文化室)

6 月と 9 月は 1, 2 歳児、1 月は 0 歳児対象に講座を開催しました。子どもの年齢にあった絵本の選び方・読み方についてのアドバイスや子どもたちに人気のある絵本と大型絵本の読み聞かせが行われました。また、講師や子育て応援隊学生による絵本を題材とした劇あそび、歌あそびなども行われました。毎回、絵本の世界にとっぷりつかった楽しい一時を親子で過ごしていただきました。講師は、岩附啓子・安藤はるみ客員研究員が務め、参加親子は 3 回の講座で 32 組 66 名、学生ボランティア数は延べ 16 人でした。



#### (3) 子どもの夢を育む児童館・学童指導員のためのセミナー (H19, 7/10 於: 津市安濃中央公民館)

児童館・学童保育指導員対象に教育講演と実技講座のセミナーを開催しました。第一部は「学童保育の中で求められる子どもの育ち」をテーマに中部大学教授豊田ひさき先生から講演いただき、第二部は「子どもと楽しむバルーン 指導法と実践」講座を本学梶美保研究員によって行いました。受講者の皆さんはとても熱心で充実したセミナーとなりました。31 カ所の児童館・学童保育指導員 61 名の参加がありました。



## (4) 子どもの夢を育むクッキング (H19,6/30・10/12・12/15 於:本学調理実習室)



幼児期から食の大切さを学んでもらおうと、6月は地域の親子、10月は園児(高田保育園)12月は小学生を対象に行いました。親子クッキングでは、野菜を切ったりピザの生地をこねたりしてピザやフルーツ寒天を作りました。園児さんたちは、子ども用包丁を使ってピザ、豆腐の白玉団子入りのフルーツポンチに挑戦、小学生はグラタン作りなどをしました。いずれも料理をする楽しさと自分たちで



作った食事の美味しさを十分味わった講座でした。講師は親子、小学生クッキングを鷲見裕子講師(本学人間介護福祉学科教員)園児クッキングを駒田聡子客員研究員が務めました。また、安全に調理できるよう子育て応援隊学生も協力しました。参加人数は3回の講座で83名、学生ボランティア数は延べ45名でした。



## (5) 子どもの夢を育むマタニティーコンサート (H19,10/20 於:鈴鹿文化会館けやきホール)



胎児と母親とのきずなづくりの一環として妊婦とその家族のためのコンサートを行いました。本公演のコーディネーターの増田久美子さんから、妊婦や胎児と音楽リラクゼーションについてのお話を交えながら、リラクゼーション効果が高く胎教によいとされる約15曲の楽曲が演奏されました。会場には約190人が訪れゆったりと音楽に耳を傾けていただきました。子育て応援隊学生も7名が協力し、バルーンによる会場装飾、受付などに活躍しました。

## (6) 子どもの夢を育むバルーン教室

(H19,8/5 於:森のホテルスメール H20,1/20 於:メッセウイングみえ)

8月の親子教室では参加親子のほか、ホテルの温泉客もいっしょに楽しみました。子育て応援隊学生5名



も易しいツイストバルーンの指導を丁寧にしていました。終了後、楽しいオブジェをホテルに飾ってもらいました。1月は子育て支援者対象に行いました。バルーンの基本講座とツイストバルーンやバルーンドローなどの製作をしました。子育て応援隊学生2名と卒業生2名がアシスタントとして活躍しました。保育士や地域で子育て支援の活動をして



ている36名の参加がありました。講師はいずれも梶美保研究員でした。

## (7) 父親教室&lt;学校行事&gt; (H19,10/22 於:本学育児文化室・音楽室)

みえ次世代応援ネットワーク主催で、講座テーマ「パパといっしょに楽しくあそぼうよ!」で子ども学科協力の下で行いました。ふれあいあそびやパネルシアターを楽しんだり、リズム楽器あそびやリトミックを行ったりしてお父さんとお子さんとの時間を楽しく過ごしていただきました。参加親子は9組でした。80名の学生がかかりました。



## (8) 馬とふれあう親子フェスタ2007&lt;学校行事&gt; (H19,11/23 於:本学構内、馬場)

本フェスタも4年目を迎えました。今回は約71組239名の親子・家族の参加があり大変にぎやかに秋の半日を過ごしていただきました。

馬術部員による馬術演技披露のオープニングから、「ポニーの馬車でのお散歩」「サラブレッド乗馬体験」「ポニーの乗馬とえさやり」、遊びのコーナーとして「ロディ君にのろう!」「ボールプールで遊ぼう!」「バルーンでお馬さんづ



くり」「小動物と触れ合おう」など多彩なコーナーでにぎわいました。また、本年は地元の一身体商工会議所の皆さんの協力を得て「お餅つき体験コーナー」も行い、つきたてのお餅もふるまいました。高田高校生 20 名、高田短期大学生 25 名が子育て応援隊として活躍しました。



(9) 保育者のためのパソコン講座 (H19, 12/16 於: 本学 PC2 教室)



パソコンの基本操作から、ワード、デジカメの操作、園だよりの作成などを 1 日ばかりで学びました。オフィス情報学科の学生インストラクターが 1 対 1 で参加者の隣に座ってアドバイスするという充実した講座となりました。参加者からは、「よくわかった」「楽しかった」との感想が聞かれました。講師は川喜田多佳子客員研究員でした。

## 社会的活動

「子育て応援隊」として様々な活動に参加、協力しました。

No.	日時	行事名	依頼内容	人数	場所	主催団体
1	5月26日	保育者のためのベビーマッサージ講習	全体の手伝い	1名	桑名育成保育園	お産・子育て環境を考える会みえ
2	6月16日	保育者のためのベビーマッサージ講習	全体の手伝い	3名	鈴鹿あおい保育園	お産・子育て環境を考える会みえ
3	7月1日	福祉講演会	受付、イベント手伝い	2名	芸濃文化ホール	芸濃地区社会福祉協議会
4	7月8日	一身田七夕まつり	バルーンアート	5名	一身田寺内町内テント	一身田青年団
5	7月14日	高田保育園夏まつり	模擬店の手伝いとバルーン装飾、バルーンアート	28名	高田保育園	高田保育園
6	7月16日	幼年美術の会	バルーンアート講習手伝い	5名	ふれんてみえ	幼年美術の会みえ
7	7月28日～29日	アドベンチャースクール	全体の手伝い	2名	奈良県立青少年センター	河芸ジュニアリーダーズクラブ
8	7月31日	高田幼稚園夏まつり	模擬店の手伝い	9名	高田幼稚園	高田幼稚園
9	8月4日	石ぐれなかよし日曜学校	バルーンアートと遊び援助	3名	いなべ市照光寺	照光寺と常満寺
10	8月5日	夏祭り	バルーンアート	2名	伊勢 i TV	伊勢 i TV
11	8月7日	学童保育	バルーンアート教室	3名	久居市誠之小放課後児童クラブ	久居市誠之小放課後児童クラブ
12	8月7日～9日	一身田歴史丸ごと体験塾	全体の手伝い	5名	高田青少年会館および周辺	津市教育委員会
13	8月10日	夜のみどりの幼稚園	模擬店手伝い	2名	津市大門津まん中広場	津幼稚園
14	8月25日	夏祭り	バルーンアート	1名	伊勢 i TV	伊勢 i TV
15	9月4日	いちごの会「育児サークル」	パネルシアター・手遊び・歌遊び	3名	ヤナセクリニックフォルテスタジオ	ヤナセクリニックいちごの会
16	9月7日	Enjoi 子育て鈴鹿 2007	託児とバルーンアート	2名	ジェフリーすずか	NPO法人21世紀の子育てを考える会鈴鹿
17	9月21日	第40回高田本山合同参拝	バルーンリリース(1100個)	5名	高田本山・青少年会館ホール	三重県仏教保育協会
18	10月7日	津まつり	バルーンアート	5名	津中央郵便局前	津青年会議所
19	10月7日	津まつり	ペンシルバルーンブースの飾り付け 受付・来場者整理 など	5名	NHK津前中日新聞ブース	中日新聞
20	11月3日	伊奈福祉社 2001 年祭	バルーンアート	4名	鈴鹿市稲生神社境内	稲生商工発展会
21	11月23日～25日	読書フェスティバル in みえ	読書の達人100人の会としてイベント運営	8名	三重県総合文化センターフレンテみえ	読書活動応援プロジェクト三重県実行委員会
22	11月25日	読書フェスティバル in みえ	高田短大「子育て応援隊」キッズタウン	24名	三重県総合文化センター大会議室	読書活動応援プロジェクト三重県実行委員会
23	12月15日	地域フェスティバル in おわせ	読み聞かせ・製作・バルーンアート	2名	尾鷲市市民文化会館	読書活動応援プロジェクト三重県実行委員会
24	12月15日	子ども虐待防止学会	ミニ劇・バルーンアート	11名	三重県総合文化センターフレンテみえ	日本子ども虐待防止学会
25	1月19日～20日	わくわくフェスタ	バルーンアート体験教室	9名	メッセウイングみえ	みえ次世代育成応援ネットワーク
26	2月3日	地域フェスティバル in いせ	読み聞かせ・託児・バルーンアート	3名	小俣図書館・小俣町環境改善センター	読書活動応援プロジェクト三重県実行委員会
27	2月10日	地域フェスティバル in まつさか	読み聞かせ・託児・バルーンアート	3名	勢和図書館	読書活動応援プロジェクト三重県実行委員会
28	3月8日	地域フェスティバル in よっかいち	読み聞かせ・託児・バルーンアート	5名	四日市文化会館	読書活動応援プロジェクト三重県実行委員会
29	3月8日	地域フェスティバル in なばり	読み聞かせ・託児・バルーンアート	3名	名張市武道交流館いきいき	読書活動応援プロジェクト三重県実行委員会

(今後の予定含む)

～子育て応援隊活動スナップ集～（番号は上記一覧表のNo.です。）



4. 一身田七夕まつり



5. 高田保育園夏祭り



8. 高田幼稚園夏祭り



8. いちごの会「いちごサークル」



18. 津まつり



23. 地域フェスティバル



24. 子ども虐待防止学会



25. わくわくフェスタ

### 後援事業

保育者のための乳児の心を育てるベビーマッサージ講習（H19,5/26 桑名育成保・6/16 鈴鹿あおい保）

～本年度2月3月の事業～

子どもの夢を育む教育講演会（H20,2/9 於：津市芸濃総合文化センター） 親子のための製作活動（H20,2/16 於：本学造形演習室） 親と子どものための音楽あそびひろば（H20,2/16 於：本学育児文化室）

子どもの夢を育む親と子のための音楽あそびひろば（H20,3/20 於：三重県文化会館第1リハーサル室）

地域フェスティバル（H20,2/3 伊勢 2/10 松阪 3/8 四日市・名張）

## 定例研究会報告

高田短期大学にて第15回（7/10）、第16回（9/11）、第17回（12/19）の定例研究会を行いました。

### 第15回

テーマ：実践的指導力の育成に向けた保育者養成に関する一考察  
教職の意義等に関する科目「幼児教育者論」学生用図書を中心に  
レポーター：市田敏之 研究員

実践的指導力の育成に向けた保育者の養成について、教職の意義に関する科目「幼児教育者論」の学生用図書の分析を中心に、検討・考察が加えられ、活発な議論が展開されました。

### 第16回

テーマ：親子関係の不協和とその影響 - 子どもと親の意識調査から -  
レポーター：橋本景子 研究員

スクールカウンセラーとしての立場から、子どもとその保護者を対象に実施した意識調査から子どもの不適応行動、心理問題の大半が親子間の不協和が影響しているということを訴え、実際に関わった幾つかの事例を交えながら報告がなされました。

### 第17回

テーマ：感じることと表すこと - 「しつけ」再考 -  
レポーター：川村きみ子 客員研究員

保育者として子どもや保護者とかかわった様々な経験を事例に挙げ、子どもの気持ちを大切にしたいかかわりや親の支援者としての保育者について、また本学学生とのかかわりから考える近年の子育て環境や今後の保育者養成についてまで話題がだされ、それらについて参加者から様々な意見交換や討論が行われました。

研究員の活動紹介・新入会研究員の紹介

千草 篤磨 研究員 (活動紹介)

私は2年前に開設された人間介護福祉学科で、心理学系科目を担当しています。研究テーマは「障害児・者の発達に関する研究」です。



20歳代の頃は天津市の4か月健診に関わったり、京都の吉祥院病院小児科で点頭てんかんの子どもや自閉症の子どもたちの発達相談の仕事などをしていました。そこでは重度の障害のある子どもたちの発達について医療スタッフと共に研究をしましたが、現在もその延長線で仕事をしていることになります。

現在のフィールドの中心は津市療育センターです。そこで実践していることは、保護者の方への発達相談と障害乳幼児の療育への参加観察です。保育士とPTやSTなどの療育スタッフ、保護者、そして障害に立ち向かっている子どもたちに励まされながら、これからも実践と結びついた研究を続けていく所存です。

川喜田 多佳子 客員研究員 (活動紹介)

オフィス情報学科でワードプロセッサ、表計算、Webデザイン、インストラクタ演習の授業を担当させていただきます。インストラクタ演習では授業



の一環として「保育者の為のパソコン講座」を2年間、学生と共に運営、開催させていただきました。毎年ご熱心な参加者に恵まれ、学生と共にすばらしい達成感をあじわっております。

これからもコンピュータを利用し、さまざまな情報収集のためのツールを現場の目線より提供させていただくことができたらと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



手嶋 慎介 研究員 (新入研究員)

私の所属するオフィス情報学科では、教員が一丸となって実践的総合キャリア教育を推進しています。私自身もキャリア・コンサルタント資格を取得するなどの教育研究を進めてきました。これから特に充実させていきたい教育内容のひとつに「子育てとキャリアデザイン」があり、センターの活動と連携できればと考えています。



また、私の研究領域である経営学では、企業の生産性を高めることだけでなく従業員の満足度を高めることも研究目的とされており、企業における子育て支援も大きな課題となっています。やりがいのある仕事と充実した私生活のバランスを取り

ながら、持っている能力を最大限発揮するようサポートするにはどうすればよいのか。経営学の研究者にできることは、子育て支援策の実施が企業の生産性・競争優位を高めることを実証し、効果的な実施策を提案していくことにあると考えています。何卒、宜しくお願い致します。

センターへのお問い合わせ・アクセス

高田短期大学 育児文化研究センター  
 住所 〒514-0115 三重県津市一身田豊野 195  
 Tel (059)232-2310  
 Fax (059)232-6317  
 高田短期大学 内線 123 番  
 Mail ikubun@takada-jc.ac.jp



編集後記  
 平成一九年度事業も残すところあとわずかとなりました。事業報告をまとめながら、センターの活発な活動ぶりを改めて実感しました。今年度も、赤ちゃんの笑顔、子どもたちの笑顔、そしてお母さん、お父さんの笑顔に出会えて幸せでした。来年度も良い年に！  
 (T・F)